

## 2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	室内音響研究小委員会	主 査 名：岸永伸二 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	音環境運営委員会	委員長名：平松友孝 主 査 名：
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2005 年度：室内音響の現状を把握し今後を模索</li> <li>・ 2006 年度：次世代重点テーマを設定</li> <li>・ 2007 年度：新規 WG 立上げ</li> <li>・ 2008 年度：WG 成果による設計資料刊行、データベース構築</li> </ul>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有り	
	佐藤洋(産総研),羽入敏樹(日本大学),岩瀬昭雄(新潟大学),小野朗(永田音響設計),買手正浩(大成建設),河井康人(関西大学),佐藤史明(千葉工大),中川清(清水建設),西川嘉雄(鴻池組),阪上公博(神戸大学),池上雅之(大林組),日高孝之(竹中工務店)	
設置 WG (WG 名：目的)	1) 音響指標測定研究 WG:各種室内音響評価指標の標準測定法の提案を目指す。 2) 音声伝送研究 WG:音声情報伝達の予測・評価手法について実務レベルの要求に応える手法の確立を目指す。 3) スピーチプライバシー研究 WG:情報漏洩防止や個人情報保護といった時代的要求の高まりを受け、会話音声に関するプライバシー保護技術の確立を目指す。	
2006 年度予算	97,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1 .(書名)
講習会	1 .(名称) <span style="float: right;">参加者数 名</span>
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1 .(名称) 杉並公会堂見学会 <span style="float: right;">参加者数約 1 6 0 名</span> 2 .(名称) 音声伝送 WG 成果発表シンポジウム(3/30 開催予定) <span style="float: right;">参加者数 6 0 名(予定)</span>
大会研究集会	1 .(名称) <span style="float: right;">参加者数 名</span> (資料名)
対外的意見表明・パブリックコメント等	1 .
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1 室内音響活性化の議論を通し新規WGの立ち上げなど新たに活動方針を定めた。 2 . 音声伝送 WG :『音声伝送の評価基準』の作成に目処をつけた。2007 年度は刊行準備に移行する。 3 . 音響指標測定研究 WG:前年度実施した共同測定の結果を詳細に分析中である。日米音響学会ジョイントミーティングにおいて一部成果を発表した。
委員会活動の問題点・課題	劇場やホール音響といった従来型の室内音響だけでなく、今後の新たな社会的ニーズを把握し、その対応に必要な室内音響技術を明確にしたい。そのために、他分野の研究者、技術者との意見交換などが必要である。また、若手研究者の育成にも目を向ける必要がある。

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。
- \* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

## 2006 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価) 最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px 10px;">A</span> <span>B</span> <span>C</span> <span>D</span> </div>
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p><b>理由:</b> 近年、我が国において大型ホールや劇場の建設ラッシュが一段落し、室内音響分野に若干の沈滞ムードがあった。本小委員会は、室内音響の現状と今後に関する議論を通して、これからの社会的ニーズを模索し、室内音響分野を活性化するという目的がある。小委員会では毎回、各委員が興味を持っている事を持ち回りでプレゼンし、問題提起してもらうなどして活性化を図ってきた。これを通して各人の問題意識が全体の問題意識へと共有化出来たことは意義があると考えられる。また、昨今の情報漏洩防止や個人情報保護といった新たな社会的ニーズに対応した“スピーチプライバシー研究WG”の2007年度からの新規立ち上げを決定するなど、小委員会活動を通じて室内音響活性化の芽は出つつあると考えられる。今後、異分野交流、若手研究者の育成などを実施し、さらなる活性化の余地はある。</p> <p><b>1.室内音響研究小委員会:</b> ○定例会活性化のため、委員更新機会を設け公募した。室内音響活性化の議論を通して新たに活動方針を定め、活動の具体化を議論。また持ち回りプレゼンを実施。劇場・ホール小委員会、音響学会建築音響研究委員会と連携し、企画・広報WGを通して見学発表会を実施(杉並公会堂(4月度))。劇場・ホール小委員会との合同シンポジウム開催を目指し、意見交換会を数回実施した。</p> <p><b>2.WGの活動成果</b> <b>2-1.音響指標研究測定WG:</b> 前年度実施した共同測定の結果を詳細に分析するために、使用したスピーカのPWL測定、使用したダミーヘッドマイクロホンのイコライザー等の特性の測定を行った。それらを元に各種分析を進めているところである。また、本WGの議論がより活性化するために、各委員が積極的に研究すべき項目を挙げた。2006年12月の日米音響学会ジョイントミーティングにおいて成果発表を行った。</p> <p><b>2-2.音声伝送研究WG:</b> 『音声伝送の評価基準』の作成を目標に活動を実施し、「建築用途・室用途」と「音声のコミュニケーション」を軸とする評価基準表の作成を行った。「建築用途・室用途」は建築設計資料集成から抽出し、「音声コミュニケーションの形態」は日本音響学会誌やISOを参考に検討を行った。既存の資料や研究報告により評価基準値の検討を実施予定である。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。